

## 2-5 レベル0の自動運転

---

表1には示しませんでしたでしたが、NHTSAは、レベル0の自動運転として、「No automation」との名称がつけられたものを定義しています。「自動化システムなし」という名称は奇妙に思えるかもしれませんが、車両を制御する機能、すなわち、縦方向あるいは横方向の制御を担当する機能を持つ機械が搭載されていないことをいっているだけであり、機械による支援がドライバーに全く提供されないというわけではありません。実際、自動車運転に必要な知覚・認知・判断・操作のうち、機械は知覚・認知・判断に関する支援を提供することができるものの、操作を自動的に実行する支援機能は備わっていないという形態がレベル0の自動運転です。

レベル0の自動運転と呼べる例には、つぎのようなものが考えられます。

- 【例6】 暗視カメラ画像の提示やフロントノーズカメラ画像の提示のような、人の目では見ることができないものを可視化することによってドライバーの知覚能力の不足分を補完する技術
- 【例7】 暗視カメラ画像の解析によって歩行者の存在が検出されたときに暗視カメラ画像上の歩行者に枠をつけて表示したり、見通しの悪い交差点において交差道路上を接近してくる車を通信技術の利用によって検出し、それを音声や画像などで知らせたりするなど、ドライバーに注意喚起のメッセージを提示することによってドライバーの状況理解を支援する技術
- 【例8】 前方障害物への急速な接近が予測されるときにブレーキ操作を促す警報を発生し、状況に適した行為の選択を促進させる技術

これらの例から分かるように、レベル0の自動運転は、旧来から議論されてきた運転支援のうち、システムは情報を提供したり、注意を喚起したり、警報を出したりするものの、制御にまでは立ち入らないといったタイプの運転支援システムです。そして、これらの支援形態がドライバーに対してどのような効果をもたらすかは、すでによく知られています。

一方、これらの支援技術を利用するうえでドライバーに求められることは、提示された情報を正しく理解し、そこで求められる行動を適時に実行することです。提示された情報を適正に理解しないとといった誤り（提示情報に対する不信と過信を含む）を回避あるいは軽減するには、システム設計者あるいは開発者による良質のヒューマンマシンインタフェースの提供に加え、ドライバー自身の努力（たとえば、支援情報は、どのようなときに、どのような形式で提示されるか、などを正確に理解しておくことなど）や、システムが提示する情報はあくまで「助言あるいは参考情報」としての位置づけであり、

それを利用するか利用しないかは、ドライバー自身の判断にゆだねられていることの自覚などが必要です。

ところで、機械が、「今、あなたが直面している状況では、〇〇という行動が必要です。早くそれを実行してください」という要請をしても、ドライバーは必ずしもその要請に答えようとしない、あるいは応えたくても応えることができない場合があることはよく知られています。そのようなときは、ドライバーの行動の不足分／欠落分を機械が自分の判断で補完できればよいのですが、レベル 0 の自動運転には、そのような機能は備わってはいません。